

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立鳥取湖陵高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和3年 5月11日
------	--------	-----	------------

1 学校目標	
<p>[1]教育方針</p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する          協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する          創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する</p> <p>実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>[2]教育目標</p> <p><b>「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</b></p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。          ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。          ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。          ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) <b>自立</b>を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の充実や専門領域の基礎基本を身につけ、資格検定への積極的な挑戦を促す。</li> <li>インターシップや企業・上級学校見学等を通して、ふるさとで働き、学ぶ意識を高める。同時に勤労観・職業観を育成し自らのキャリアを設計する基礎を育てる。</li> <li>実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。</li> <li>高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。</li> <li>教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。</li> </ul> <p>(2) <b>協同</b>の学びで自他を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。</li> <li>小中学生や県民に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする。</li> <li>地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる。</li> <li>障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウィルス拡大の影響で資格・検定試験が中止、延期になったものがあり、合格者数も減少した。 R元年度 804 → R2年度 754</li> <li>○インターンシップは実施できず、企業見学会を代替として行った。</li> <li>○各科の課題研究等において主体的な学習を行うことができた。</li> <li>○例年のように実施はできなかったが、各科でできる範囲のイベントを行った。</li> <li>○ボランティア部を中心にできる活動を行った。</li> <li>○緑地デザイン科、情報科学科が特別</li> </ul>

<p>共に生きる心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う。</li> </ul> <p>(3) 学びを<b>創造</b>する力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に学ぶ責任があることの意識を高める。</li> <li>・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</li> <li>・BYODの成果と課題を検証し発信する。</li> <li>・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。</li> <li>・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>○取得資格の目安・・・資格取得・検定数(卒業までに3個以上)</p> <p>○難易度により3段階に分けた資格や検定に計画的に継続的に資格取得や検定合格に臨む。</p> <p>ベーシックを基礎として、1年から2年時の取得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・概ね受験者の80%以上の合格を目標とする。</li> </ul> <p>○アドバンス、スペシャルは、2年後半から3年前半にかけて取得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・概ね受験者の50%以上の合格を目標とする。</li> </ul>	<p>支援学校との交流授業を行った。</p> <p>○協同学習、iPadを活用したICT教育の研修会、授業研修会等を開催し深化を図った。</p> <p>○理科(生物)と農業学科、理科(物理)と工業学科などで連携を行った。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>○資格・検定取得合格率 60.8%</p> <p>1人あたりの取得数 1.52</p> <p>コロナウィルス拡大の影響で受験できなかったものもあり、目標達成とならなかった。しかし、スペシャル(非常に難易度の高い)で応用情報技術者1名、アドバンス(難易度の高い)でスーパー農林水産士3名、漢字検定2級1名などの合格者があった。</p>
--	--

<p>3 実施事業</p> <p><b>【高等学校課事業】</b></p> <p><b>地場産プラザ「わったいな」における生産物販売実習(土曜日授業) 【農業学科】</b></p> <p>校内で栽培・加工した生産物を直売センターで販売することで、流通・販売までを総括した学習を実践する。土曜日に実施することで本校の教育内容を多くの県民にアピールするとともに販売技術や接客マナーの向上につなげる。</p> <p>→コロナウィルス拡大の影響により実施できなかった。</p> <p><b>外部人材活用事業 【全科実施】</b></p> <p>それぞれの専門分野の講師から直接、知識や技術を学ぶことで専門性の深化と応用を図る。また、地域と連携するなかで地域産業への理解を深め、地域課題の解決能力を身に付ける。</p> <p>→県外在住の講師、着付けなどの密状態になるものを除き、各科で計画通り実施できた。</p> <p><b>「ようこそ高校へ」版キャリア塾 【全学年】</b></p> <p>キャリア教育を推進するため、ビジネスマナーの講義を受ける。良き社会人、社会の構成者を目指すためにも高校生活を充実させ、常に基礎学力の向上を図ることが大切であることを理解する。</p> <p>→R元年度は全学年で実施できたが、今年度は3年生のみの実施となった。</p> <p><b>東部地区専門高校協同企画「専門高校フェスタ」(仮称)</b></p> <p>各専門高校の学習内容を多くの県民に周知できるイベントを開催する。「ものづくり」体験、さらに、各校の生産物、コラボ商品等の販売等のブースを設置し、魅力を発信する。(令和2年度、鳥取湖陵高校が事務局予定) →コロナウィルス拡大の影響により実施できなかった。R3年度実施に向けた実行委員会を行った。</p> <p><b>【独自事業】</b></p> <p><b>自立する力</b></p>
---

**(1) 湖陵版資格スタンダードの決定【全科共通】**

各科で重点的に取り組む資格を生徒にわかりやすく説明するため、専門科目や特に重要視する部分を明示し、学習意欲の向上や課題研究への接続を円滑にすることを目的とする。資格の見える化を図り、教科指導の充実や生徒の資格取得をしっかりと支援する。

→県外視察はできなかったが、校内において研究を行った。

**(2) インターンシップ【全科共通2年】**

鳥取県東部地区の学校・企業・施設等において、本校で学んだ専門教育等の学習成果を発揮するとともに、勤労観・職業観の育成や社会との関わり方、自分自身の素養をみつめる機会として実施する。

→インターンシップは、受け入れ企業や事業所が少なく実施できなかった。代替事業として鳥取市内企業への科別の企業見学会を行った。

**(3) キャリア教育形成能力育成事業【全科共通1年】**

県内の上級学校や関連企業の見学をとおして、地域教育や地域産業について理解する。また、実際に働いている方や施設や設備の様子から、自分自身を働いている姿を想像し、将来の進路選択に役立てる。

→各科別に計画通り行った。

**(4) 基礎学力養成【全科共通】**

夏季休業中に大学生等を招き、生徒への学習を支援してもらうことで、より効果的な学力の定着を図ることができる。

→大学生、専門学校生8名を講師に招き実施した。

**(5) 専門技能育成**

**①技能オリンピック・若年者ものづくり競技会【緑地デザイン科】**

標記の大会への出場を目標とすることで生徒の意欲向上や専門技術の向上を図る。

→技能五輪（愛知大会）に二名が出場した。

**②フラワーデザインの技術向上【緑地デザイン科】**

プリザーブドフラワーの作品を制作、展示し校内外に学習内容をアピールする。

→中学生体験入学代替授業見学等で実践できた。

**③庭園の設計・制作と出展【緑地デザイン科】**

鳥取県造園建設業協会主催の「花と緑のフェア」で庭園を披露する。→中止

**④技術講習会【緑地デザイン科】**

「造園技術検定」・「フラワー装飾技能検定」の実技練習を実施し、合格率の向上を図る。

→合格率向上に向けて努力できた。

**⑤検定取得による技術向上【電子機械科】**

とっとり技術マイスター認定技術者を講師に、「普通旋盤」・「電子機械組立」の合格を目指す。

→スキルアップを目標に取り組めた。

**⑥「持続可能な農業を目指した土づくり」に関する実践研究【食品システム科】**

農場で発生する植物残渣を「エコファーム鳥取」に持ち込み、たい肥化し農場で使用する。

→連携し実施できた。

**⑦AIプログラミングコンテスト参加【情報科学科】**

全国の情報学科が学ぶコンテストへの参加を通して、実践的な活用能力を高める。

→京都すばる高校とオンラインで接続し実施できた。約30チーム中ベスト4に残ったチームもあった。

**協同する力**

**(1) ふるさと交流事業**

**①公民館との味噌づくり【食品システム科】**

地域住民の方々に食品加工施設を開放して、味噌づくりを体験してもらう。

→コロナウィルス感染拡大の影響により実施できなかった。

**②小学校・特別支援学校園芸交流【緑地デザイン科】**

湖山、湖山西小学校、鳥取聾学校等と手話交流などを通じた児童との園芸交流を進める。

→小学校には訪問し、聾学校にはオンラインで園芸交流を行うことができた。

#### ③わらべ館と連携RCカーサーキット走行会【電子機械科】

わらべ館のラジコン展イベントと連携し、RCカーサーキット走行会を運営。

→コロナウィルス拡大の影響で中止になった時期もあったが、実施できた。

#### ④福祉交流体験【人間環境科】

鳥取医療センター重症心身障がい者施設等で障がい者自立支援活動体験・重症身体障がい者介護体験・音楽セラピーの実施等に取り組む。

→回数は減ったが実施できた。訪問できない分は施設の方に来ていただき概要等の講義をしていただいた。

#### ⑤iPad活用交流とプログラミング交流【情報科学科】

特別支援学校を対象としたiPad活用支援や小学性を招いてのプログラミン交流の開催。

→鳥取養護学校とオンラインで交流を行った。

#### ⑥園芸セラピー【全科共通】

ボランティア部を中心に利用者の方と草花や作物の栽培、フラワーアレンジメントなどの作品作り。

→6～12月の間に11回実施することができた。

### (2) 魅力発信事業

#### ①中学生一日体験入学

中学3年生に本校の特徴である総合選択制や教育内容を理解してもらうことを目的とする。各科及び各コースの実習内容を体験してもらう。

→8月の体験は中止になったが、10月に代替事業として授業見学を行った。

#### ②中学校出前授業

中学1・2年生対象に本校諸君生徒が出向き、専門高校の各学科の基礎的な体験を通して専門高校への理解や興味・関心を深めてもらう。

→主に中学校側の要請に応える形で実施した。各学科が積極的に参加できた。

### 創造する力

#### (1) 湖陵フェスタ

本校の専門教育の内容や教育環境を広く県民に周知するとともに、教育内容改善の一助とするものである。地域との連携はもちろん、中学生や保護者の本校教育内容の理解の促進に資する。また、この取り組みの準備や販売・展示を通して生徒の学習意欲の向上につなげる。

→コロナウィルス感染拡大の影響によりR2年度は中止とした。YouTubeの「湖陵チャンネル」において取り組みを紹介できた。

#### (2) 実践による創造力向上事業

#### ①JGAP認証農場の維持と普及および県版HACCP認証鳥取湖陵ブランド食品の開発。【食品シス科】

令和元年8月に取得したJGAPの維持推進と6次産業化教育を推進し、本校独自の食品開発に取り組む。

→目標達成に向けて取り組むことができた。

#### ②JR鳥大前駅壁面のフラワー装飾と学校緑化プロジェクト【緑地デザイン科】

駅構内の壁面に花壇装飾を設計・制作し、学習内容の成果をPRする。校内に庭園・樹木見本園を設計施工する。

→予定通り実施できた。

#### ③レゴロボットによるプログラミング教育・世界への挑戦とAVRマイコンを用いたIoT学習教材の製作【電子機械科】

国際的ロボットコンテストWRO大会参加と子ども向けロボとワークショップに開催。3年生課題研究でIoT学習教材を制作する。

→予選を突破し、オンラインで行われたレゴロボット全国決勝大会に出場できた。

#### ④ファッションショーの開催【人間環境科】

「ファッション造形基礎」の授業の成果発表として、「青陵祭」でファッションショーの実施。

→公開対象を限定したが実施できた。

⑤鳥取県の魅力発信【情報科学科】

食のみやこ推進課と連携し、地元デザイナーに助言をいただきながら、本件ノベルティグッズを作成する。  
→食関係のイベント中止が相次ぎノベルティグッズは必要なくなりましたが、将来的な作品のための制作活動を行った。

⑥2020ジャマイカ事前キャンプおもてなし【人間環境科・食品システム科】

オリンピックホストタウン推進事業の一環として、ジャマイカの紹介、試食料理の提供、JGAP認証トマトの料理等で事前合宿をおもてなしする。

→オリンピックの延期によりジャマイカの前キャンプも延期となったが、「課題研究」において継続的に研究、活動できた。

⑦スマート農業【緑地デザイン科・電子機械科・情報科学科】

工業、情報、農業科が連携し、小型コンピュータ（ラズベリーパイ）で、湖陵版スマート農業に取り組む。  
→R2年度は電子機械科の「課題研究」で装置製作を行った。

⑧起業家教育事業【農業学科】

各種緑化フェアやわったいなで販売実習に取り組む。

→緑化フェア、販売実習ともに中止となったが、各授業内において主体的な取り組みを行った。

#### 4 総合所見（成果・評価）

各事業においては、継続してきたものが多く、事業を実践し、成果を発表することで評価をいただき、今後の活動に活かしていく形が望ましい。しかし、R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの実践が中止になり、その影響を大きく受けた。資格取得においては、合格者数が減少し、合格率も上がっていない。分散登校や休校により体系的な学習ができなかったことが要因として考えられる。2年生対象のインターンシップは、鳥取市雇用促進協議会の事業である企業見学会に参加することで代替事業とした。しかし、職業観を形成するまでには至らず、今後の進路意識向上への丁寧な取り組みが必要である。そんな中でも、オンラインを活用し、特別支援学校との交流事業や、各種大会への参加によって学習成果を発表する機会を得ることができた。また、Youtubeチャンネルの活用により各科の取り組みを発信することができた。今後は、生徒が学習成果を発表できる機会を可能な限り持つように、各事業の中で工夫をこらしていくことがさらに求められる。

※枚数任意